



十三の六

大倉園林

外務省

国立公文書館	
分類	持株
排架番号	3 B
	14-13
	④4909

4909



（午後四時三十分 再開）

○ 柳村君を 二ノから大倉南係の説明をさせていただきます。今日

は共済敷きまじきの便中屋さんとソウ方です。

○ 上野君君を 七日は安直命と致しおし、既内同族支配力排

除法ヨカチ四條に基きまじき、既内同族同社の人事統制を中心

として、併し説明を伺い、ソウ類とソウ類をわけます。

申上げらまじき、ソウ類の同族ヨカチ三條に基き、

内 閣

裏面白紙

案の説明をさす物令確信の申上とさすをり、又は隠し申
 立とさすようは、場合には四割則の適用があることとあり、
 事柄の、さすに、所承知とは存じますが、十分注意を願います。
 でお尋ねの箇條の説明は、十分以内にお止め、
 残りは、お尋ねの方々の質問に、対する所答をお願ひを
 願います。この上も、お念ひを願ひます。と、お尋ねは、
 お願ひします。

内 閣

裏面白紙

の中屋氏 物申屋と申し奉る。昨日行啓の先輩におて世直おと
思ひ申したのりすが、みんちやめておれりまうのり、ちかく思つたよう
と参りませ人の心、私が行説明と伺つては次第はあります。

私の方から申しり、ソコソコより書類の中、つた食取肉と就こし
と假りお名前をつけ、ヒのみのソコソコ。その中、人の統制に属する
多ものと申します。ソコ、事業及び人事の統制、概要という
とソコソコソコソコ。

内 閣

裏面白紙

の小なるように申しました。その事務処理とか理するとか申します
 ものには割合に關係の深い——と申しますと例をば合資会社と云つ
 ついておきます。大倉南のとか、大倉北のとか、大倉鐵道のとか、或は
 後に申すように縁が非常に薄くなり申したが大倉の火災保險、
 ニホラの合資会社社長といつたような人が大倉の理事をやらせてお
 いたわけのことがあります。と云うお事務の理するといふの如く一人おりました。
 と云う各社の役員その他のことを兼任しておりましたが大倉の人は

内 閣

裏面白紙

取締役。あと、頭取とか副頭取とソウのはをまどしむやうに
 いとソウようなニヒツツイイイイイイ、各社の人々の決定と申します
 と、大正直業会社の最善幹部の人が役員会を開いて常務を
 作りますと、あとは常務理事とか頭取、副頭取のトニソへとい
 を御朱しました、ソレはよめらうとソラニヒなつて、大概はソ
 ソラソラをソレソレとソラソラ、を小加株を總会とかけりうと決
 定して行つたとソラソラが大作の順序のようにつつあります。

内閣

裏面白紙

そのほかには各社の取締役等と人かききめする時にも、最

責任者が役員会を開いて、そのわけを語り、今と同じような方法を

とすべく、行つたのが実情のついでに、手続に因るとあり、規

則は、金銀、まいのついでに、何と、いふか、大福帳等に、自由に

と、いふ、うらな、ことと、や、つ、お、つ、た、の、つ、た、い、ま、り。

そのうち、念々、念々、社、大、倉、組、が、大、倉、組、業、株、式、会、社、に、取、り、

小、ま、し、た、昭、和、十、年、三、月、に、際、に、な、り、す、と、頭、取、と、お、頭、取

内 閣

日本銀行長官 B5(18)行長

裏面白紙

とか常務役員、役員とソウもろか自任ト守くまもりまし、大倉

銀業の役員が——誰に常務取締役と社長おまりのとソウじ

御業合名会社大倉組のやつてソウことを大倉銀業としてやつてお

りまし。実際の業務以外トソウをやるようになりまし、暫く

するとその終戦になつてしまひまし。

と申すにあつ、ニホトモ書いあります通り、奥合軍の方の基

本的方針もいんく分つて参りまし、い、解作のオ措巻としまし、

内閣

日本銀行臨時理事(1947年)

裏面白紙

二十一年三月十日付大倉組に即ち常務取締役の大崎おと、
 高橋先太郎の如きまゝ、あつて残りのものは、大倉常
 務の人材を及ぶに關係もあり、又海外に居る人もあつて、何と
 なくおと米をまつた人切りの残りの心、一人だけ常務の心
 東洋におりまゝに取締役の常務取締役は、その心は足りません
 不、一人 社員のなかう取締役をわたくしの推薦によつて補え
 ました、三月七日付の函に全社の解散の準備とソフニと

内 閣

日本郵政省第116(1)行第1

裏面白紙

ありてやうな事も次第に消えてゆく。

終戦後の大倉財閥解体経過の概略は先程もちらりと触れ

ました。二四頁にお出ししました文章の中に何となく言及は

されておらずと云う事を書きおろしておりますので、別段の説明する事とも

テソように存じます。

大倉特徴としていへば何もかゝりなき、慣習的に自らに二二

書かされたよう事にと云うやうな事ありまして、私共が解説

内 閣

日本国憲法第95条(1)第1項

裏面白紙

明すよりもお南より頼つた方が宜しりかと思つたのであります。
 の陽村の事、あなを後末の事、今おれとあつたの心すか、を
 小とも大倉組の方すか。

の中屋、私に能末の金銀の事におりませし。——とていふ金銀
 社といふのは非帯に人数の少いと云ふのでございまして、事務員とい
 こも二十人か、多々い、三十人くらい。その中は頭取の秘書役とか
 女給仕の入り、多々い、三十人くらい。ひつかり閑とした、びつ
 びつ

内閣

裏面白紙

南まほし、その通りと考まへし、その以上にはなすわけなき。

○平岡委員 大倉銀業会社の本来の任むつ方はどうなつてお

ますか。大倉銀業とソノは名義とか銀とかいすか。——ソノ

か今度どうなるのいすか。

○中尾氏 どのも最近までは、やつてソノ名義は大概純正の金

種と殺してありまして、大倉銀業としては何も現在はない。

としまつております。

内閣

裏面白紙

○平岡新良 之ハハイツ頃からいす。

○中尾ハ 十八年頃本公は直搦にやつておりおしをか、
或は紙之
の金銭となつてしまし。

○平岡新良 とうするとい、十八年の三月に大倉組が大倉新業
と合併しきつじよう。

○中尾ハ けあ、とういす。

○平岡新良 とう後は大倉新業が本業の事業その他に持株会

内 閣

日本国銀行 BOC (1873)

裏面白紙

社的存在となつて」というように書いてありますね、どうすると

十八年三月には大倉組業の本来のマイシンの方の任るはも

うほかに行くししホクエのモのびすあ

中屋の、いや、と小は三ついう成行きなんです。自分の直接やつ

いろのそ成る程及終達しますと、と小を他五の会社とし、子

会社とし行く、と小のつをやり方が割合に多かつた。と小の偶

然しつおいますけりとも、十年頃には大根直接やつてりたと

内、
閣

日本郵政省B6(14)行第

裏面白紙

か、法律上は他立して法人となつてゐる、どういふ結果になつたのか。

○手回書 とうとうと紙を、持株会社になつたのか。

○中居氏 一、銅山と、とうとうか、今うな、ソとソの、で、やつておつた

の、ありおしたか、うさな、もの、です。あ、あ、の、調査、後、の、もの、を、あつて、

金、然、もの、に、な、ら、な、い、の、です。今、い、も、ま、ま、上、は、あ、り、ま、す、け、小、の、も、

金、く、僧、徒、の、を、い、も、の、です。

○陽村書 合名会社に社員が、社員の中から頭取い

内閣

日本銀行

裏面白紙

すか。

○中尾氏 社員と申しますと、合名会社の社員といふのは

本資社員ですわ。

○岡村氏 社長と申すは、頭取、副頭取、常務理事、理事とい

うの御方、三人選で構成されておる理事、会長といふものがある

たのびすね。

○中尾氏 え。

内閣

日本経済史料館蔵書

裏面白紙

○陽村安貞 とうしと中任頭取といふのは今も大気八郎と

と記す人といふか。

○中丸氏 初めは八郎といふは記す。

○陽村安貞 列頭取は

○中丸氏 内野重九郎といふ。

○陽村安貞 お一人といふ。

○中丸氏 一人といふ。あつ人が隠居するまじり列頭取といふ。

内閣

日本国史館蔵書 B5(1) 14113

裏面白紙

○陽村委員 隠居ニトモトハ

○中蔵氏 どういうものはなくをクシロ。自下に出したものをいす

か。早く言うと志七郎と志八郎と内野さん、

三ツノ人の内野の俗稱は志七郎と志八郎と内野さん、

合名会社大倉組代表社員大倉志七郎といふことにあつたわけ

で。

○陽村委員 常務理事とどういふはをいすか。

内閣

裏面白紙

○中尾氏 常務理事は遠水島に即ちこの方、
後口七くちりました。

○藤村新良 一人いますか。

○中尾氏 一人います。

○藤村新良 終始一人いますか。

○中尾氏 ほとんど一人のやつおりました。

○平岡新良 大倉組の庄敷とい、ますか、
五人あ、どういふものば、

内閣

裏面白紙

或は大倉組の定款というより、そのものは全然さういふ事か。

○中尾氏 大倉組の定款はついでに。

○平岡氏 大倉組は。

○中尾氏 大倉組の定款はあつたのだから、昔、この定款に

書きました。香初めはあつてもういふ事か、私書見てもさうか

ない。印刷もしたことがあつたといふ事か。

○平岡氏 埋り金といふのはいつ開かしたの事か。

内 閣

裏面白紙

○中尾氏 少少は、よほとの時ひなにと、理多念は開か小きあ、スヒヒウ
ワの書情ひま。

○陽村新負 理多念を開いた時は、記録は、

○中尾氏 そういふものはないのです。ゆつと、理多念は開か小きあ、スヒヒウ

○陽村新負 書情は速小く、みやくと、おうと、をのりか、と、の書情に

ついでに、記録はないのですか。

○中尾氏 記録はないのです。大福帳式をいひ、一、頭取、副

内閣

11-13-1117 B5C-F11137

裏面白紙

頭取、常務取締役という連中の懇話は大作さまへ行くといいです。

○陽村新造 とうとうと、大倉七郎さんは会社へしよつちやう来ら

小をいすか。

○中尾氏 一週間に三度来水は多う方です。

○陽村新造 内野さんはどうですか。

○中尾氏 内野さんも大仰とういす。三三度来水。

○陽村新造 毎日来水はどのくらいか。

内閣

日本(海軍)局長(大倉七郎)

裏面白紙

○中尾氏 御日遊小入人ツツ

○陽村重貞 此七郎を人かりおにレドちし時ほきまつい

3つひすか

○中尾氏 ちまつこおりません。

○陽村重貞 一週向にばんいう強取、列強自、表お改めちと

かた果かりりになつて一併に命めおさるというをニと一お互ト

同じ日に表おようというをも、ちソクツツすか。

内閣

裏面白紙

裏面白紙

○中尾氏 ちつこおりました。

○陽打新良 内務省へもちつこおりましたか。

○中尾氏 ちつこおりました。

日重役にちつこおりましたね。

○陽打新良 とは何かと、ソウのことになりすが、一、此閣僚の令状に

○陽打新良 大倉さんは倉庫切けいしに、ちつこおりました。一、閣

○中尾氏 ちつこおりました。ちつこおりました。ちつこおりました。

内閣

日本国史館 B5(143)行長

○陽村新島 とうりう会社の會社令より候は令には報知ト
ありありました。

○中尾長 割合にあたりました。

○陽村新島 とうりうとニラにあたり候は、予めニラソソ同堅

トソソはニラとソソのツケ合せとソソにあたり候は、ソソのソソ

○中尾長 とうりうとニラは、（中尾長とソソのツケ合せ）一應報告書に、（中尾長とソソのツケ合せ）

諸的は前口頭に入らありませう。

内 閣

裏面白紙

○陽村新あり。尊徳命の原業のすか。

○中尾氏 自らの隠居しといふ。今社の尊徳命の原業の頭合入つ

とありまふから、その原上におくは後型は少くやつて行けるわけ

なり。

○陽村あり。そのうすると尊徳命の原前に應の頭合のすか。

のすか。

○中尾氏 以上でかあります。

内閣

日本歴史資料館 B-10-1411

27

裏面白紙

○ 陽村新屋 とうとうとと大倉さんには刻石に勲功に勲功を
いさめいさね。

○ 中屋は 金も知らぬいとおるといふことばもなかつたと思つて
じい、何とどうか、心も静かに抱かすといふようなことはなかつ

たしす。自分い、小はいあんといふようなことはなかつた。
それとも自分の直接社長をやつていふとか、或は金長をやつていふとか

いふところ、お席、小のい、自分が平取ちかやつていふようすと

内 閣

日本銀行 1915 (1915)

裏面白紙

三つは出さうかと思ひし。

○杉本 今貸金社の理より何人のしきか

○中尾氏 四ヶ所もあるし、大伴五人います。

○杉本 どの理より関係会社の最高……。

○中尾氏 南信令社といつても、大倉組五社と申しました、倉名令

社大倉組と、高々と上木、飯業、保障、三、五社います。五社とい

つても保障、以後の増外にあまして、四社います。

内閣

裏面白紙

○陽村参り 月田とか何とありうさめぼをソツワすか。

○中尾氏 と小もありません。必要に應じて開くとソツワすか。

○陽村参り と小は誰が開きうとソツワすか。

○中尾氏 と小は常務の理するしよ。大抵ソツワすか。

ソツワ 招集しこありますか。

○陽村参り 招集は遠水さんか。

招集の日ソツワすか。

内閣

裏面白紙

○中尾氏 といは内野ノ之とか連水ノ人ありい大伴さまりまゐ

○杉本氏 必要に應じぬといふは如何いふことひすか。例えは

岡部今多村ノ人ノ問題 といふようなきことひすか。

○中尾氏 岡部今多村ノ人ノ事問題 今人の心は改り今まの備く

ようなきとはちかづきと思ひまゐ。大概多葉岡部が多のつ

てのま。人多岡部ノ人ノ事問題 今人の心は改り今まの備く

いふ時は、大概内野、連水、といふことひすか。持つて行つて相後

内閣

裏面白紙

しおけの置しいのいす。

○杉本貞 例は本土木の番上人をさめるがも連水、内野西
氏にヨウレシオウクイサム。

○中尾氏 勿論五社の最良新神の社名、命名の時は連水、別頭
取、連水とイラヒヨウレシヨウカ。大伴三人のときヨウイサキ子。内か

の、例は本土木の最良新神とイラヒヨウイサキ子。命名の時、命名
の社名とかイラヒヨウイサキ子。命名の時、命名

内
閣

裏面白紙

○ 昭打書
さうりふと名紙作り成しと案あさんか報告さす

○ は誰にするのいふか。 應の報告は速水さんにするのいふか。

○ 中尾氏 速水さんにして、速水さんから頭取、副頭取とさうへ

報告する。

○ 昭打書
さうりふの報告の大作さすつて、大倉さんか役

員命とか様を報告さすめ、大倉さんか指針さするといふ

外務省

裏面白紙

移せしむるは、わげのすね。

○中居氏 本居氏七郎が自分公社名とか念書せしむる
るところをうば、をうす。

○陽村新員 大伴所自身は、
は、わげのすね。

○中居氏 大伴出せぬ。それと、
は、わげのすね。

種ずるとか何とかが、
は、わげのすね。

外
路
書

裏面白紙

○ 萬應寺 今も今社の事務も受け継いで御供はやは

り帳簿といふは御供といふ、さういふものがある筈ぢや

ないですか。

○ 中屋敷 今計のものはありません。

○ 高橋寺 とうとうと、今も今社の仕事を受け継いで御

供の御供は、少くとも何千人の事務員の方がおられると

思われます。さういふ方はとうとう仕事をなさつての御供が

外 記 音

裏面白紙

申元は 大仰多務員の方で會計的を二とせよ部分と、
 歴史的を二とせよ部分と、或は秋書の互部分と、大
 作シつたうり分たし。しかし歴史的と會計的
 長じとあ、後係りなましたか、初めはそんまのほをふつ
 ちしものは會計部長、歴史的部長と二名許かひきた。
 中小の秋書し 秋書つらう頭取秋書と別頭取秋書

外務省

裏面白紙

とらうようなことを自然に言うようにとてなすべし。

○ 甚くは、そのうさうさといふ方々を待つてあらうとした

任るの記録の中から、何れも然るを明かにすような材料は

あると方々で利用にやるとは、いさゝかといふ。

○ 中屋氏 短日月又旬に記録を捜すのみむつかしいといふ。

和漢か、大倉抄とせし引継ぎの中は、どういふものかは、い

くは、い

外 語 省

裏面白紙

○ 平岡秀良　とらすると大倉組業の任事の中、持株会社

的支部に關する記録というものは全然ないのであるか。

とらいうか、とらうと解雇していろいろのいすか。

○ 中尾は、とらはとらうと音取のすか。

○ 平岡秀良　つまり大倉組業の任事の中、持株会社をやつておる

といふことですね。とら以外に重要な任事として持株会社の

任事をやつていろいろのいすか。とら持株会社の任事と關する

外務省

裏面白紙

記録とソノものは何れも纏束まつたものはそのいふか

○中居氏 為束をかつてのいふ

○陽村新良 しめしつらうもあはるわけいしようね

社々の業の成續と對する批判、一、多業成續とソノもの

とソノの報束はお取リとつていふわけいしようね

○中居氏 といは、播磨多社以すのうり業成續の、普通

の株を世々水と同一ようたもの、といふ補足的な説明とし

外務省

裏面白紙

とものは世間でありませぬ。

〇陽村委員

これは普通の株を以て対する成績を以てし

いわけの役員会におき法算をお出しにまつてあつたのぢや

まゝかと思ひませぬ。——普通の持株会に於けるならは

親会社に対しては重役会におき程度の詳細な法算報

告を出してあつたのぢやないかと思ひませぬ。

〇中尾氏

直接の四社に出していません。

外務省

裏面白紙

○ 陽材部員

そのしと更作、あなをの方にもいれおき、おとなつ

ております、直接の会社の社員の特遇とソウよつたもの

は、ソウもあつて、書類はあつて、あつて、そのと比較検討

するに、その料金は、社におつたわけに、ソウね

○ 中位は、そのは各社の責任者、おつた、比較して、大抵

そのソウないようになつた。

○ 陽材部員、社員の特遇は、ソウいす、各社の責任におつた

外 務 省

裏面白紙

此と云ふはソノトウなモウモヤサリ合名に於てあつたのいしやうね。

形々略には種々を修めしめしよつが、事實的には合名
合名でさしおつたのいしやう。

○中記は 最高幹部のやつはさしおつたと思ひます。あとは

自分とさしおつた最高幹部のやつは、報告ししてゐる。

○陽村委員 報告をして了解はとつたかと思ひしやうね。

○中記は 船つてソノと思ひます。

外務省

裏面白紙

〇 杉本貞 生程の續きを簡きこいのひすか、合名会社は

役員合社に移つてわけはすぬ。その時に合名会社のえ

役員、頭取、別頭取、常務理事、その人達は合名会社の

役員合社の何にさすのひす。

〇 中尾氏 めんをさすに終りにありました。その合名会社

の役員合社の役員をさすに終りにありました。その合名会社

りました。

外務省

裏面白紙

〇杉妻貞 副頭取は

〇中尾氏 副頭取は 息やめよし、鋳業の相繼行の何

カヒキツモリの方。

〇杉妻貞 常務理事は

〇中尾氏 連水、二人は終戦後七くきりまじり

〇陽村貞貞 どの前の鋳業令新に移つと時は

〇中尾氏 どの時は常務力にたりまじり。大原鋳業株式會

外務省

裏面白紙

社の中務取締役

○ 杉本員 〇とりの理るは惟ひすか。

○ 中尾氏 〇とりの理るはもとく自分の持てる分の社長とか。

○ 杉本員 〇とは二つ三つ方の取締役とはなうなかつての理すか。

○ 中尾氏 大倉銀業とは入りません。

○ 杉本員 平取締役はなかつての理すか。

○ 中尾氏 〇とはありましたが、〇とは入りませんの理した。

外務省

裏面白紙

○杉野道

その平は

○中塚氏

と小前めう大倉船業の取締役とやうな人

かそのま、……

○杉野貞

と小はとういの人達か。

○中塚氏

たふさんおりました。

○杉野貞

と小から合名倉社の社員はとうなりました。

○中塚氏

社員は、その時にやめ人もおりました。

外務省

裏面白紙

○杉本員 出資社員にすよ。

○中島氏 出資社員は、合併に當つたのであつたから株主にな

つておられる。銀業会社の株主だ。

○杉本員 出資社員というのは大層さうの同族にしよう。

○中島氏 門野氏の一部持つておりました。あとは同族です。

○陽村員 同族は何人かといふおりましたか。

○中島氏 倉名の持つた倉を持つておられた人といふものとお人

外 務 省

裏面白紙

いらいす。大部分は七部に入ります。

○陽村委員 内野さんと同族かや、その人のすか、姻戚関係

を何もたのいすか。

○中尾氏 何もありません。

○陽村委員 今指定された指定は、

○中尾氏 四人あります。

○陽村委員 その方は、みなを社員にあつてのいすか、

外務省

裏面白紙

○中風氏 社員はす。

○杉本氏 一 銀業に行かす。エの店名は社のようなことを
社名及び別社名。常務はヤツレに任せわけておね。

○中風氏 頭取はあつても人が銀業の社長におります。そ水
から連水氏が常務にあり。―― びすから前か常務

とやツレに大崎新吉と高橋忠吉即氏の常務に成る
わけです。とすに各名の常務がヤツレにようなことを二の三

外務省

裏面白紙

人いやるようになつていす。

○杉本員 総業ヲ作来リ任事以外ノ任事アリ

○中屋氏 とういす。大作日内野さんととらと連水さんのと

こらひさまのいす。

○陽村員 相談役トナリてあつても内野さんかきめあつ

てのいす。

○中屋氏 勿論係解り報出は取付けにあつて。一頭取

裏面白紙

○中居氏 へい、ありがとうございます。これは何とソウか、どいもあつ
シとをんひすか、兼職するえひやね。

○陽村委員 とうとう習慣は大伴二十一年の暮頃まで続
いておくとソウようは考へてい、わけいすね。ト大倉さん
のおみやめとまつものが二十一年の暮頃いすね。

○中居氏 終戦の暮いす。十月廿日いしたか、大伴兼任の
時は、雲骨を許さずけいも大伴、らん久をとつへやまのり、

外務省

裏面白紙

としに官報に出すのは、イ由社です。

○上田常員長 従属会社は、

○中屋氏 従属会社は、その商標は、幾つにありませぬ。

○都村君也 事業は、いかにあります。

○阪村新員 日清製粉というのは、

○中屋氏 秋の方の工場です。大連が主な工場です。横濱に

工場をもちました。大連の方で全くなく、ちりまじりませぬ。

外務省

裏面白紙

○ 高垣新助 事務局にお伺いしますが、大倉信長を小自
 作の内訳を判断なさると必要資料として、二十七年の
 と考へておりましたか。

○ 事務局 今ウと云うわけは、ウと云うと申すのは、
 外と申すもせん。一應二十七年の御見しと申すは、
 し要料したい資料がつかえます。

○ 高垣新助 是小と云うは、再い大倉組の方をお伺いして、お聞

外 務 省

裏面白紙

分かつ夏と資料とソフものは、三ヶ所だけ判断しようとする
ことである。

○事務局長 とうとう。

○臨時委員 帝島村には合意が持つておいたもののりか

○中屋氏 あくは名合社大倉組が持つておいたものを、臨時委員が

相違した。

○臨時委員 あくは、いさく、東向野は、すく、合意合社

外務省

裏面白紙

い見がわうへましむか。

○中尾氏 ありまは合ふとしは道第今社にのびいません

い少中子五社の中いなりかうと人なに詳しく見たりません。

○陽村新員 ありまはとをたか後員になつておうへまし

たか。

○中尾氏 七郎氏が社名をやつておうへまし。あり人

はありまか好まひすかう。

外務省

裏面白紙

○陽村新員 とうしきと常高村のソラノ内問題

しあはは火丸の事案上り任るを金部やつてあつちの
すね。すべりつとは火丸の火急上人に所相後しちのいすか

○中尾氏 会長いすか。

○陽村新員 役員五人の法

○中尾氏 火小はやせり連水々々のと二三いすか。

○陽村新員 連水々々は役員でいすか。連水々々から大

外務省

裏面白紙

令々之と行くとソウのいすか

○中尾氏 とういす。

○陽打野良 とういす、おんしの重徳屋、精進徳屋に大層。

さん出かけし行くか、連水々内野々んあう多けを靴紙に

書ししやつて行つてと陽解しとい、わけいすね。

○中尾氏 おんのは新倉とよく出、行つてよういす。

○山田野良 先刻あう常盤が倉然をいと仰うとや、うい

外務省

裏面白紙

すか、最初から全然作らなかつた。とソアのいすか。それ
と終戦當時はよくさういふ物も少くもり焼却すもとのいすか。

○中屋氏 作る習慣がないのいす。

○山田新員 合名会社は庄敷かきげんは分ちしをい

しよう。

○中屋氏 ある筈のすか、和清見とことかなりのいす。

○杉新員 古ソ方は持つておろすのいす。

外務省

裏面白紙

○ 福田委員 庄敷は裁判所に行けばある筈ですね。

――それが大倉系の子部の判断は無理ですね。

○ 脇村委員 あなたの方の不利益ですね。その点もあなた

の方がいい、やはり関係の役員の方々の利益をりをお考え

になつて、もう少しはっきりなさつておかげをうかがひたいや

なつかと思つておりますかね。

○ 中尾氏 社個人として思つておりますが、實際はさうなのですか。

裏面白紙

○中居氏 解体の方である。

○平岡新良 じゃ解体はよくて、合名会社の責任、持

株会社の責任をいすか。

○中居氏 昨日議決後 〇〇

○陽村新良 いや、平岡新良の持株会社は、持株会社の任

事をいつ頃かどうやらおぼつかないというのだから。

○中居氏 昨日持株会社の責任というよりは、大倉新業

裏面白紙

○ 支那郵政、支那國境の任地の任職をセツておりました。

○ 支那郵政、支那はいつ頃かどうですか。

○ 支那長、給付のやり方がありました。給付後、支那とやうな

クニですか。

○ 支那郵政、ソレ、支那以前も、昭和十八年三月頃からや

つておられるように。小東郵政は……

○ 支那長、小東郵政は直接切やうのつておりました。

外務省

裏面白紙

とソラよシなものは、持株関係のモウと念社自作のもの、

重要事項を二つに分けておいた。念社を小自作に属する

ものもそのし、念社を二つに分けておいた。速水さん

と念社を、別荘長との間の協定を以て、とソラ記録は、

ソラが、大抵のことはおやりしております。念社念社の決意録

のほかに、重要事項を二つに分けておいた。念社念社の決意録

念社とは。

裏面白紙

○中屋氏 本末をいりてすよ。私の特長をいけ。

○杉野氏 とうとうと速水氏と相違し、とうとうと...

口から口で行くわけです。

○水岡氏 大島さんと高橋さんが、いってやうかと...

ついでに、あまをいって見ると、あう本を範囲の判...

断してついでに。

○中屋氏 秋達が今もいって見ると、また秋達にも...

裏面白紙

さましち。しめしなると言うのひす。大崎氏は比較的早も
若い方が東多にありませうと見せたりす。向違
つひなると言うのひす。

○山内新良 十八年三月に大原組を領事と合併し、時ど
ける大倉組業務の分課規則としようか。何部々々という
ものがありません。と小はらうのうらに命じられました。

○中尾氏 金沢大倉組業務の機構と変化はありませう。

裏面白紙

<p>○ 山田書院 とうすくと持持念群のものは何部といふ とさびやうゝあう小ちうのうひ</p>	<p>○ 中尾氏 何部といふとさびやうゝあう小ちうのうひ</p>	<p>○ 山田書院 何部といふとさびやうゝあう小ちうのうひ</p>	<p>○ 中尾氏 何部といふとさびやうゝあう小ちうのうひ</p>	<p>○ 山田書院 何部といふとさびやうゝあう小ちうのうひ</p>	<p>○ 中尾氏 何部といふとさびやうゝあう小ちうのうひ</p>
--	----------------------------------	-----------------------------------	----------------------------------	-----------------------------------	----------------------------------

外務省

裏面白紙

○中屋氏 銀業の為勢澤長にすか

○山田氏 之。

○中屋氏 一番後のは木下というりす。

○山田氏 之の方は今

○中屋氏 今大倉銀業の取締役と最近よりまると。 (信澤)

○勢澤長 之の任りをしておりす。

○平岡氏 之の方か未だ未だ平定になかつての以すか。

外務省

裏面白紙

○中屋氏 和より若し人... 和を人の公... 務年を合つて

いるの...

○山田氏 主入つて来れ... 何年くらうか入り

と... の...

○中屋氏 和は... 子会社... 山田氏と

... 年... の...

○山田氏 ... 何... 替り...

外務省

裏面白紙

ひきかへ

○中屋公 昭和十五年六月のす。

○山田新造 かつとそりま、ま即深きつらつれせつをのり

すね。

○中屋公 へ、同時に新設さかましとま即深きになり

ましと、と小まのばま即深きをのり。合えとま即深きと

いらのあつとを、部長とま何とみいらもりばをしに

外務省

裏面白紙

○山田重良 深き口よりか香上りす。

○中屋氏 鏡業今社は深き香上りす。大伴人数少しと

三つに評をんといふのはなかつとのひす。

○陽村重良 夫那陽は何人かといひす。

○中屋氏 番多いと云は七人ありましと。そつから少く

なり、終戦のときは島原に歸らなかりしと云ふ

ういふなりとありしと云ふ。

外務省

裏面白紙

〇 陽村野負

合名を銀業の合併した後、帝画亦それと對

する統制というより委任多はとニいやつておらけました。

〇 中屋氏

と今は多常務のところにいますね。事務としては

〇 務の合計

はつちかびます。

〇 高橋野負

どうするかと銀業の合併の業務は自作を

〇 取扱うのはとニひすか。

〇 中屋氏

直接に売すものがある時は、前と銀銀理とい

外務省

裏面白紙

まづき仰ぐしやうを、一つぐういあうなとソウのは、つ、

○中歴々、そ小は獨者申つたつて、今ほもうなんにも優

施ぬまのりつて

○上田あま長、大作の程ない宜しうつて、いますか。

どうも所若芳様いし。

(午後五時三十五分肉会)

外務省

